

2. 2 研究論文・小論文の書き方（国語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析し、その成果を文章化して他者に示すための、論文の構成のあり方、叙述方法を学ぶ。そしてその学習を踏まえ、課題研究として研究した内容を論文にまとめる。

(2) 研究開発の経緯

入学当初から評論文の要約に取り組み、得られた情報を論理的に表現する方法を学んだ。2学期末には、パラグラフライティングについて理解し、課題研究のレポートを論文の形式にまとめた。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は、獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析を進める創造力・理解構成力などの「真理探究力」を促すことができると考えられる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH 国語総合

対象生徒 普通科1年生徒 8学級

実施場所 本校 各教室

実施内容

要約

『長文記述問題集読解力習得編』（いいずな書店）記載の評論文・小説の要約

論文

- ・論文構成の書き方について学ぶ。
- ・パラグラフライティングを用いた段落構成の在り方について理解する。
- ・パラグラフライティングによって文章を構成する。

ウ 検証（成果と反省）

長文を要約することで、与えられた情報をいかに取捨選択し、論理に一貫性のある文章にするかというトレーニングができた。理解した内容をまとめて言語で表現するというのは難しい作業であるが、継続して行うことで理解構成力を養う一助となった。

パラグラフライティングについての理解は容易なことであり、このような文章構成がグローバルスタンダードだという認識も持つことができた。しかし、自分が持つ情報をパラグラフライティングで構成して表現するには訓練が必要であり、時間がかかるものである。今回はパラグラフライティングへつなげるための第一段階として、構成メモをもとに「高校生に制服は必要か否か」をテーマにパラグラフライティングに取り組んだ。筆者の主張を読み取ったのちに、「自らの考える自由とは何か」ということを考え、どのような意見を持ったかをパラグラフライティングで書いた。生徒の感想では、活動を通して「文章が以前より読めるようになった」「文章構成力が身についた」などの肯定的意見が多く見られた。一方で作文のためのメモを作る段階までは進んだが、そこからうまく自分の意見を説明できなかつたり、適切な具体例書けなかつたりする生徒もおり、さらなる表現力・構成力の育成が求められる。

指導する教員側の反省点として、評価についてが挙げられる。教員が評価をする前に生徒間での相互評価と自身による自己評価をさせているが、これらの評価間に差が生じており、その多くに自己評価の低さ・他者評価の高さが見られる。出来るだけ客観的な判断ができるような評価基準を作り授業内での指導も行ったのだが、あまり効果はみられず、「生徒同士で評価を行う活動」の難しさを感じた。

以上の反省点について次年度には積極的に意見交換をし、より良い指導の方法を模索することが必要である。